

2021年8月25日(水)

## 旧東海道ブラ歩き(8) 大磯—小田原

前回は8月4日に猛暑について辻堂から大磯まで歩いたが、今回は残暑の薄曇りの中を大磯から小田原まで歩いた。家から駅までの往復も入れて総歩数38800歩、スマホの情報では歩行距離20.2kmとなっている。辻堂—大磯が37000歩だったのでそれを一寸上回った。

朝5時半にたたき起こされ6時27分の横須賀線に乗った。前回同様電車内でパンとおにぎりの朝食、戸塚で東海道線に乗り換え大磯着が7時半、7時40分に歩行開始。少し歩くと島崎藤村の旧邸とあるので路地を入れて見に行く(写真1)。なかなか凝った家だ。藤村は昭和18年に没しているのではんの短期間だが同じ空気を吸ったことになる。大磯から暫くは昔からの松並木が続く(写真2)。戦後すぐの時代に親父と一緒にオートバイと車でこの道はよく走った懐かしい場所だ。この辺りで歩き出して30分ほどで日本橋から69kmとの標識に出会う。更に進むと旧吉田茂邸だが、時間が早すぎたことと、そもそも緊急事態宣言で休園中だ。建物は失火で失われたが、庭は立派に整備されているらしい(写真3)。

大磯—二宮間は結構遠い。歩き出して2時間ほどで日本橋から74kmの標識(つまり大磯から5km歩いたところ)と共に二宮町の山西という場所が記されている。更に30分ほど歩くと漸く小田原市の看板が出てきた。右に富士山が見える。しかし喜ぶのは早い。要は小田原市の東端の国府津に入ったと云うことだ。この間何々道祖神とか何々一里塚などを通るが、立ち止まらず専ら歩く。今日は結構距離があるので何とかゴールまでたどり着かねばという強迫観念がある。

国府津の辺りは旧東海道(国道1号線)は西湘バイパスのすぐ横を走っており、道を左に折れるとすぐ砂浜でそこから西湘をくぐって海に出られる。海岸に行ってみたい誘惑に駆られるが、ここは我慢のしどころ。10時半頃太平洋と真鶴半島、それに伊豆半島の大室山・小室山を一望できる場所に来て思わずシャッターを切る(写真4)。丁度この場所に太田道灌、源実朝ともう一人の尼さんの景色を愛でるそれぞれの詠歌が掲示されている。既に3時間近く歩いているので、だんだん足が重くなる。吉田兄の平成15年の旧東海道走破の記録を見ると国府津で静かな喫茶店に入ったとあるのでこれを探したがどこか分らない。スマホで調べて漸く駅の近くのマシュマロという店を見つけたのが11時15分、ところが開店が11時半だというので外のテラスで開店を待ち、開店1号の客としてランチを注文。ここでゆっくりランチを楽しみ12時半再度街道歩きに復帰した。1時間ほど歩いて漸く酒匂川の橋を渡る。左は西湘バイパス超えに太平洋、右は箱根の連山の続きと思わ

れる山々が見える（写真5）。橋を渡ったところで新田義貞の首塚があるというので探したが道を間違え、交番で聞くと大分行き過ぎていた。足の負担にはなるが折角だから見ようというので元に引き返し、散々探し回ったあげく漸く見つけた。住宅地の入り組んだところにあり何の変哲も無い。

更に歩き続けると14時半、昼食後2時間歩いたところで遂に東海道小田原宿の標識に出会う（写真6）。それから20分ほど歩くと日本橋から84kmの標識がある。大磯が69kmだったからこれで15km歩いたことになる。その後新宿や唐人町といわれていた辺りを歩き小田原駅の真南に着いたところで本日の街道歩きを終了し、駅に向かった。次回は小田原から湯本まで歩き、その後は既に走破済みの甘酒茶屋までバスに乗り、そこから芦ノ湖に出て箱根ホテルで一泊して翌日三島に行くつもりだ。この行程を少しでも楽にすべく、湯本に向けて少しでも歩いておこうと思っていたが、遂にこれは断念した次第。

小田原駅のすぐ近くにウイローの店があり、そこでカキ氷も出していたのでここに寄って疲れを癒やした。道中随分麦茶や紅茶で水分を補給しながら歩いたが、この甘味の店で先ず冷たい水が一杯出てきたときに、家内も小生もあつという間に全部飲みきってしまった。それほど汗で水分が蒸発していた訳で、これでは余程水分補給をしなければ脱水症状になることが実感できた。休憩後小田原を15時少し前に出る東海道線に乗り、途中戸塚で横須賀線に乗り換えて16時15分くらいに西大井駅に到着、駅前のマクドナルドでコーヒーとソフトクリームで一休みして17時前に無事帰宅した。今後は一日歩いてどこかに泊まり、次の日に再度歩き続けるという形態になりそうなので、日頃の訓練を怠らさずに行う所存である。



写真1 旧島崎藤村邸



写真2 旧東海道松並木



写真3 吉田茂旧邸前



写真4 国府津海岸の絶景



写真5 酒匂川の橋の上で



写真6 小田原宿の道標